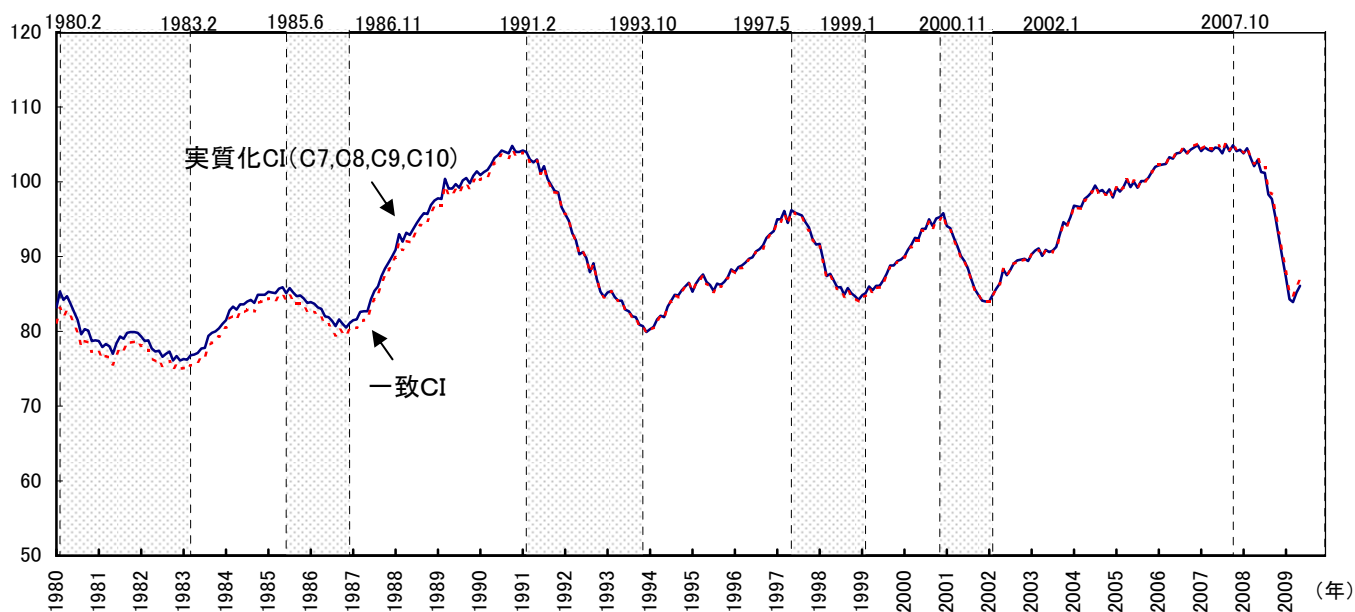
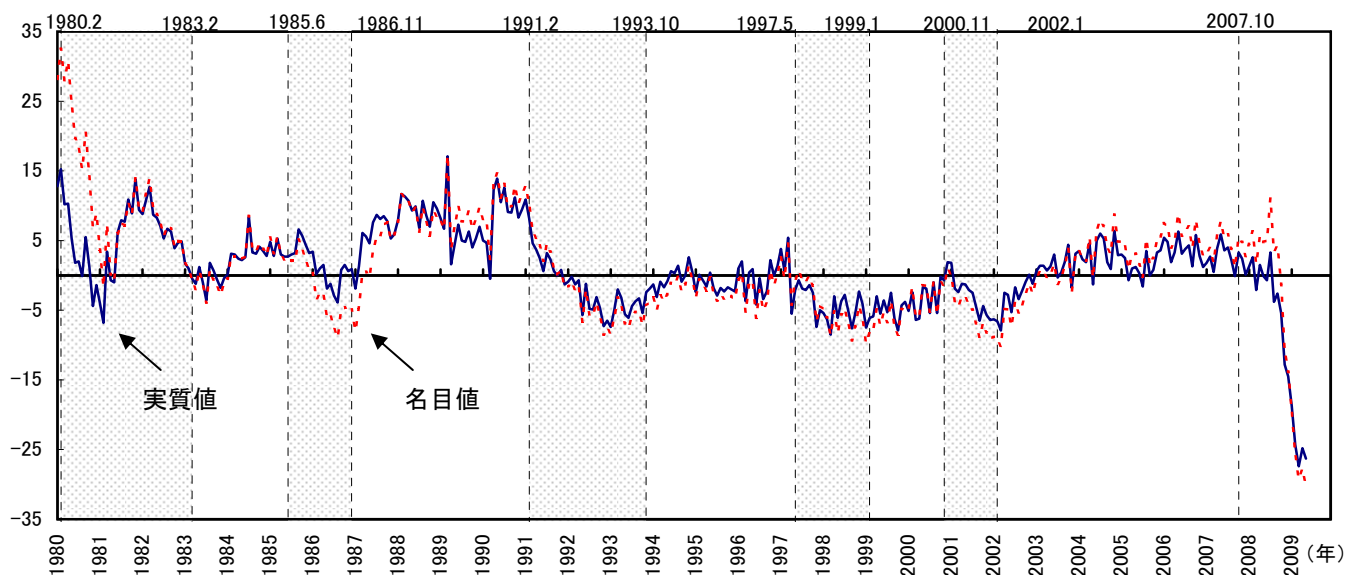


# 図表8 名目値と実質値の比較

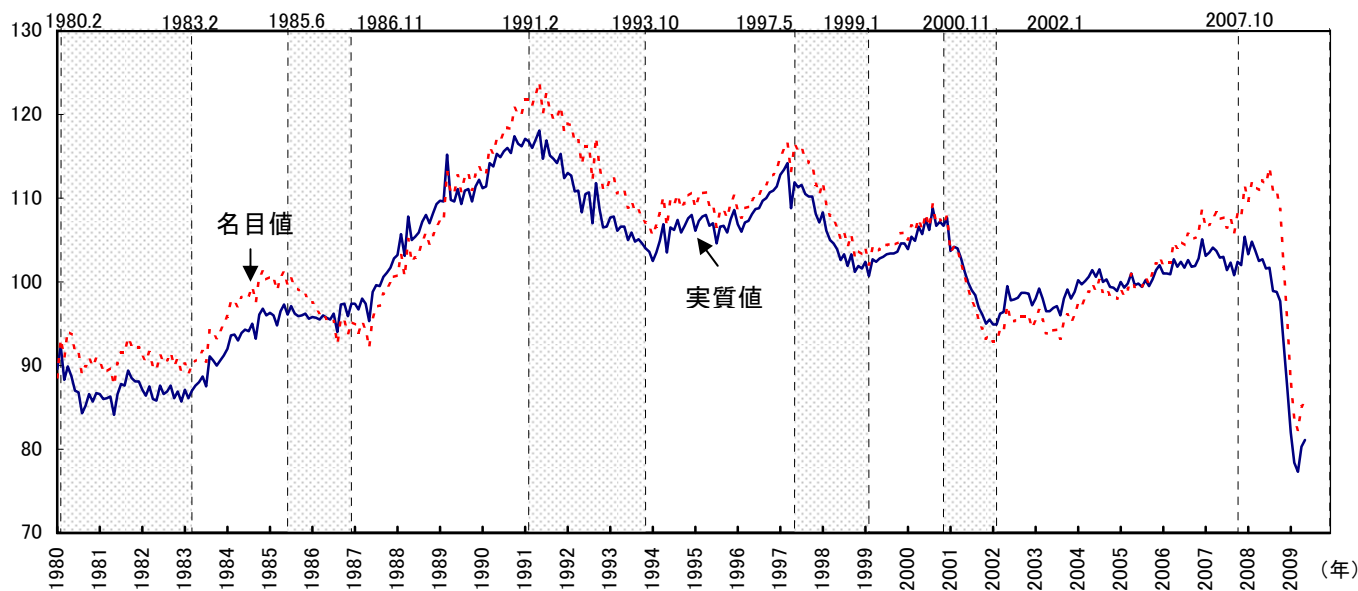
## ①実質化CI(C7,C8,C9,C10)



## ②名目値と実質値(商業販売額(卸売業))

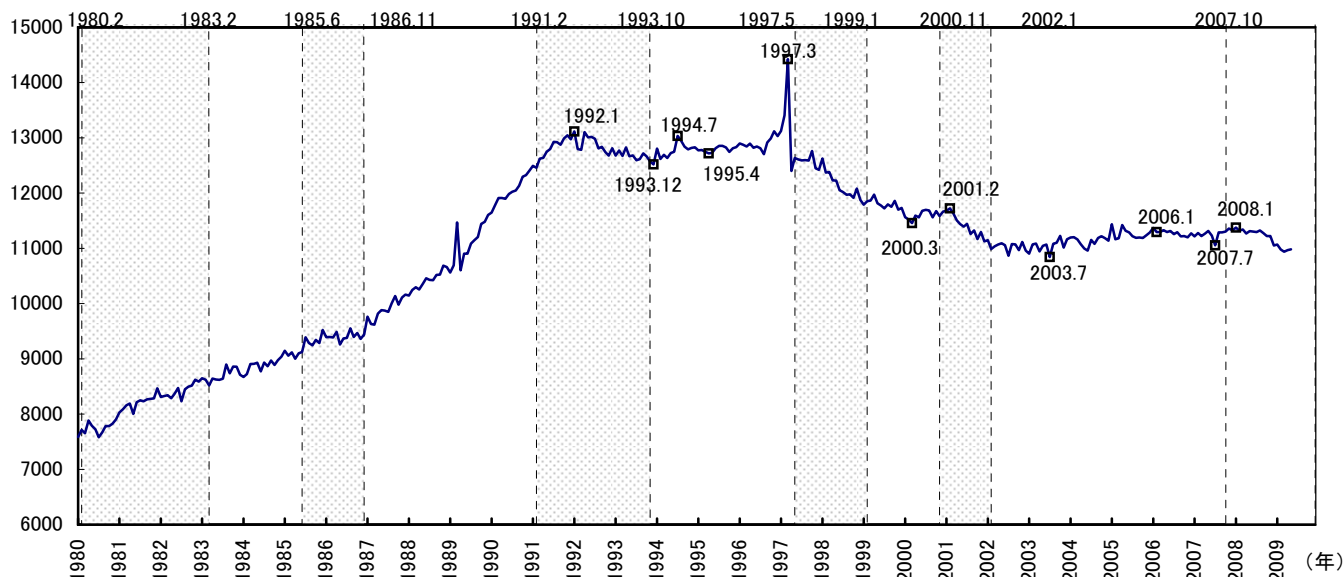


## ③名目値と実質値(中小企業売上高)

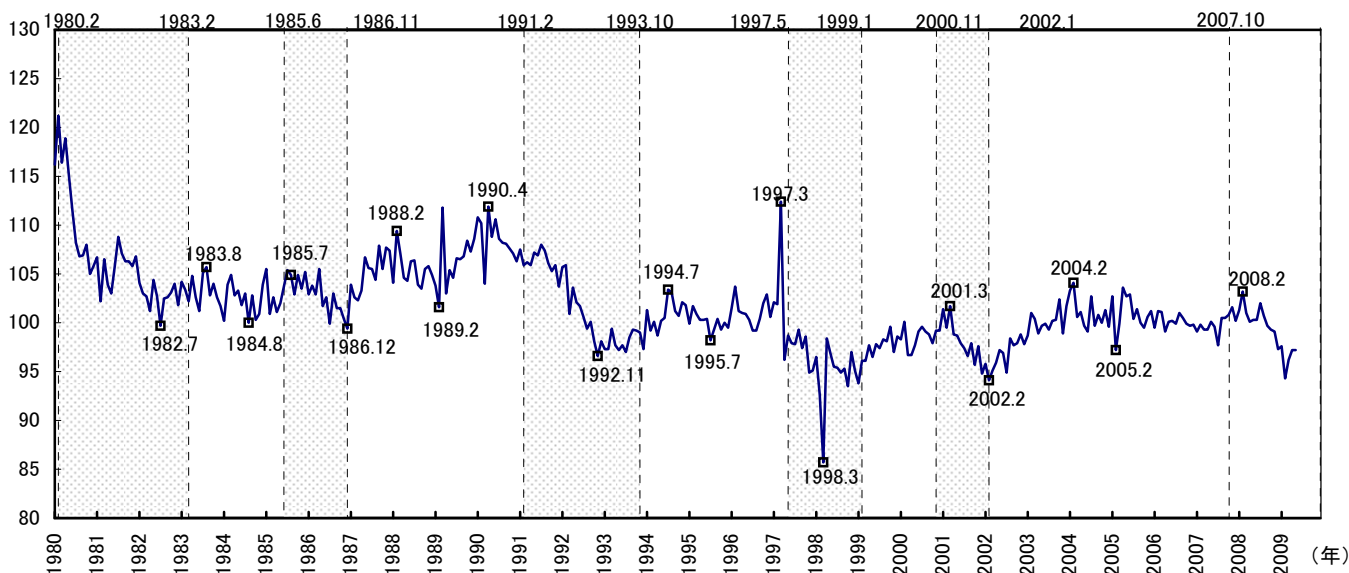


図表9 前年同月比系列の動き(商業販売額(小売業)、耐久消費財出荷指数の例)

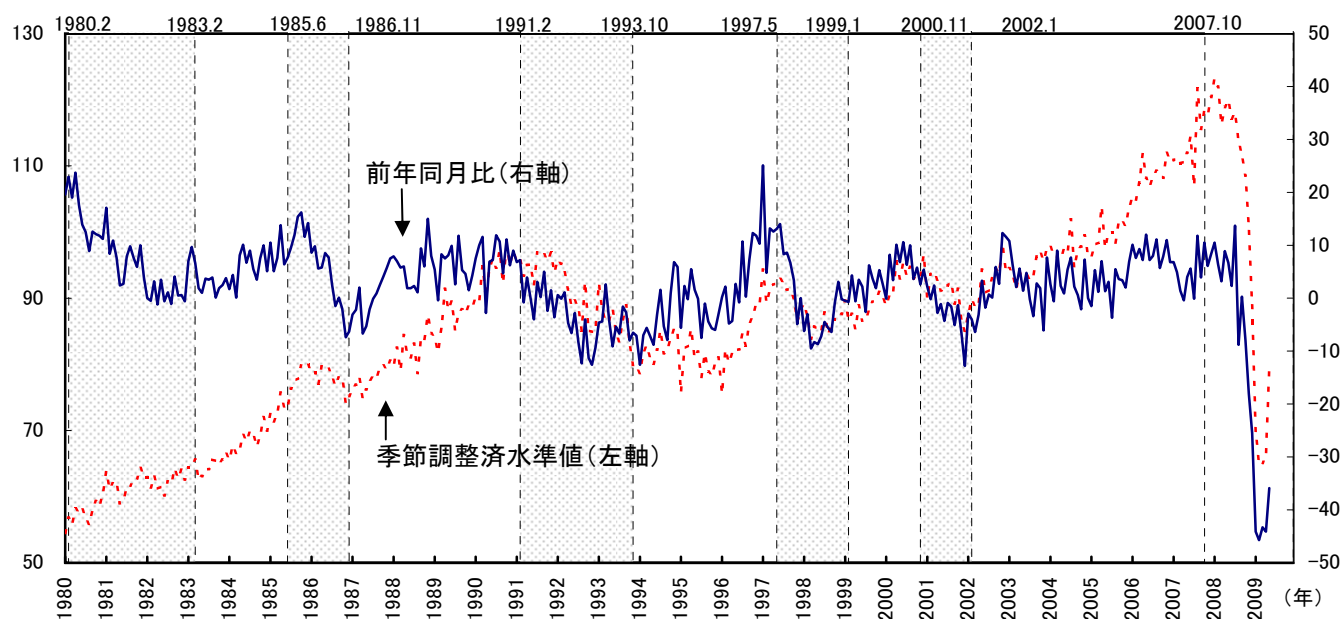
①商業販売額(小売業)(季節調整値)



②商業販売額(小売業)(前年同月比)

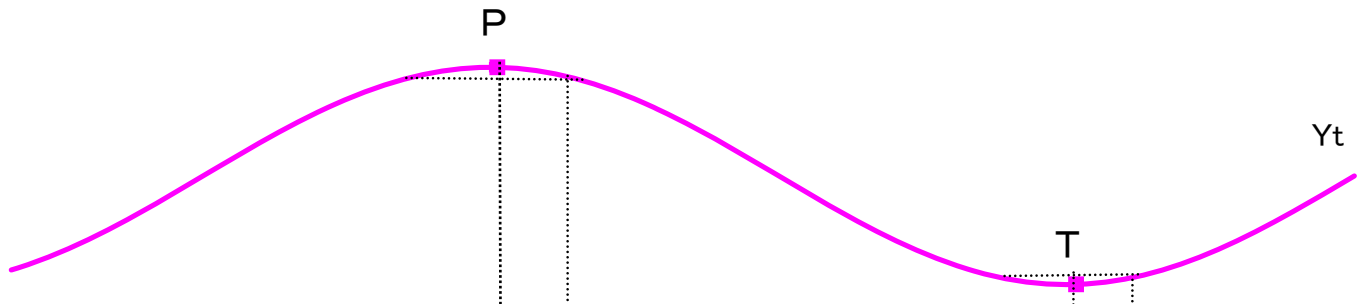


③耐久消費財出荷指数(季節調整済水準値、前年同月比)

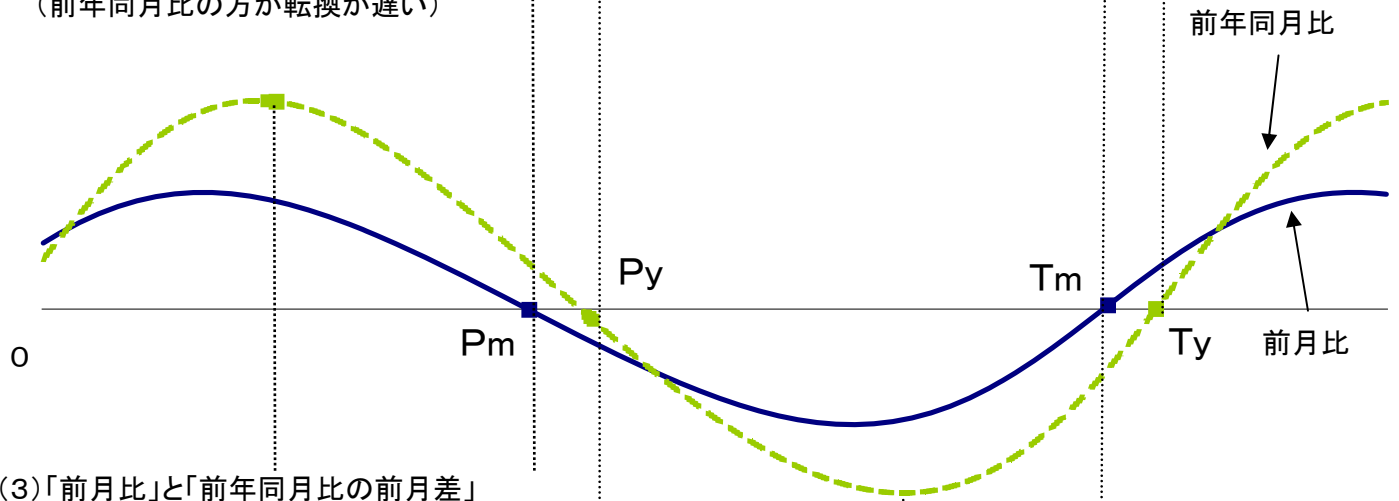


④「前年同月比の前月差」と「前月比」の比較(模式図)

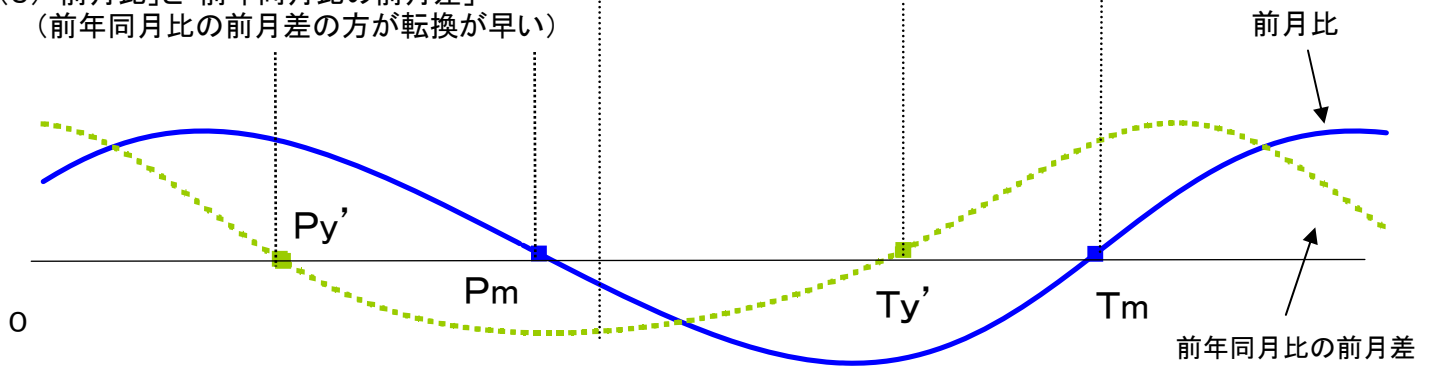
(1) 季節調整値の水準 ( $Y_t$ ) と景気の山谷



(2) 「前月比」と「前年同月比」  
(前年同月比の方が転換が遅い)

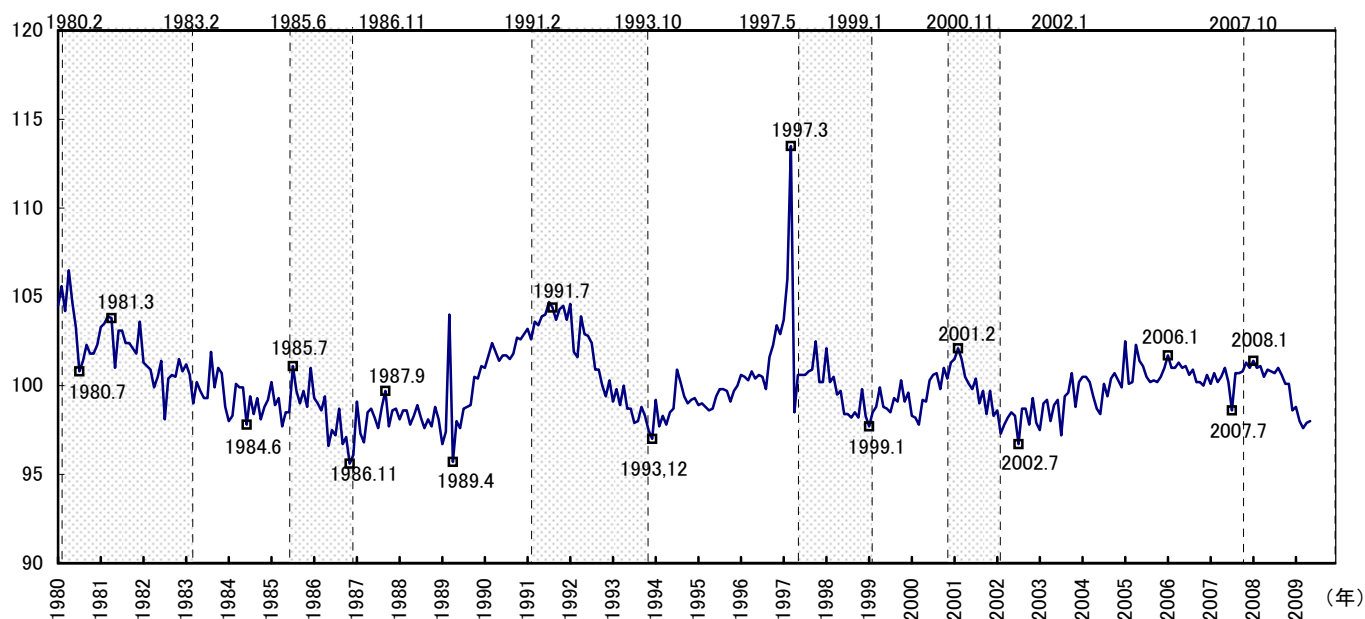


(3) 「前月比」と「前年同月比の前月差」  
(前年同月比の前月差の方が転換が早い)

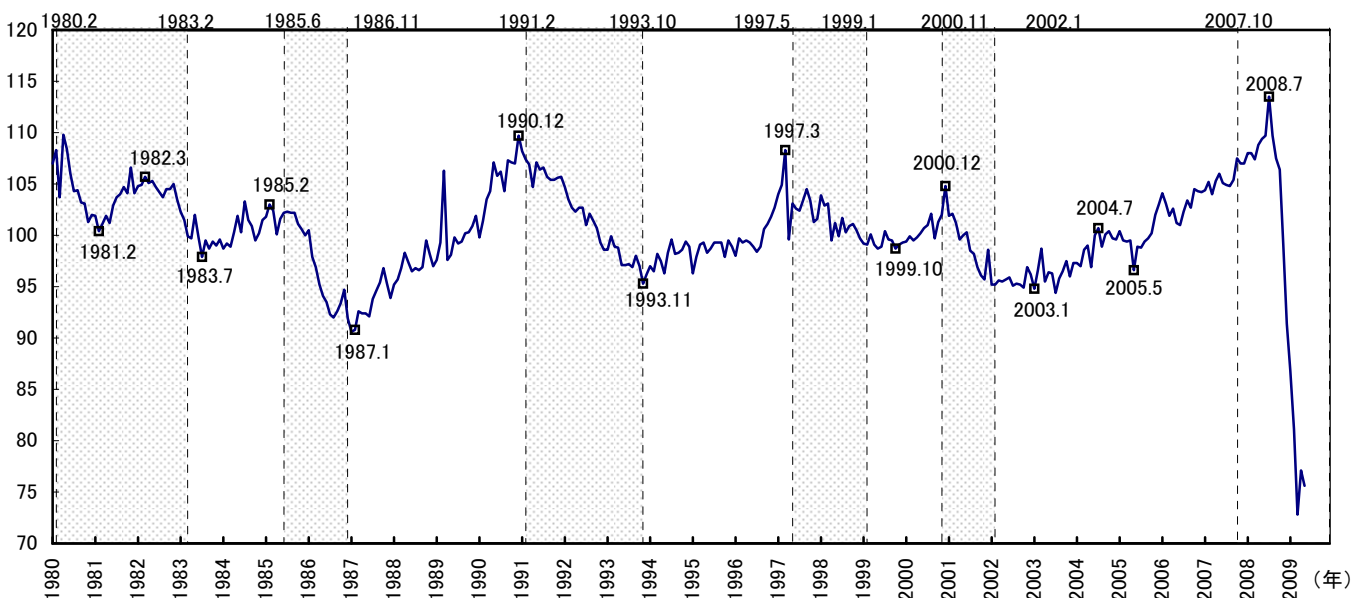


図表10 前年同月比系列の動き(HPフィルタによるトレンド除去)

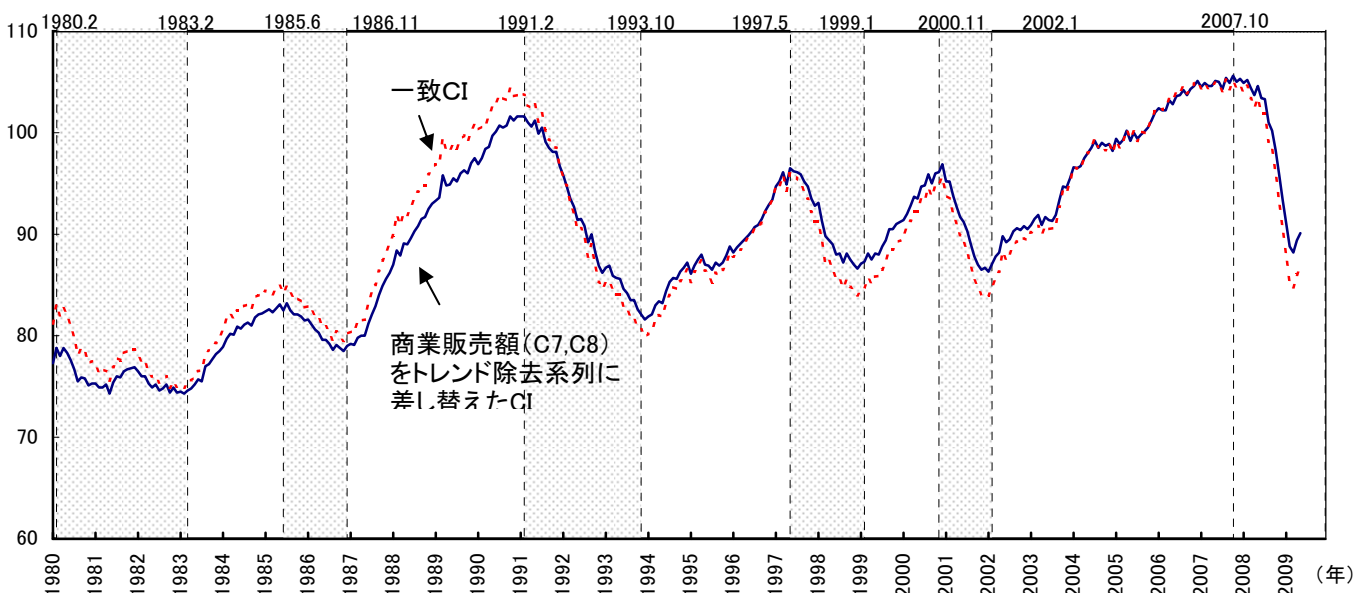
①商業販売額(小売業)(季節調整済トレンド除去系列)



②商業販売額(卸売業)(季節調整済トレンド除去系列)



③商業販売額(C7,C8)をトレンド除去系列に差し替えたCI



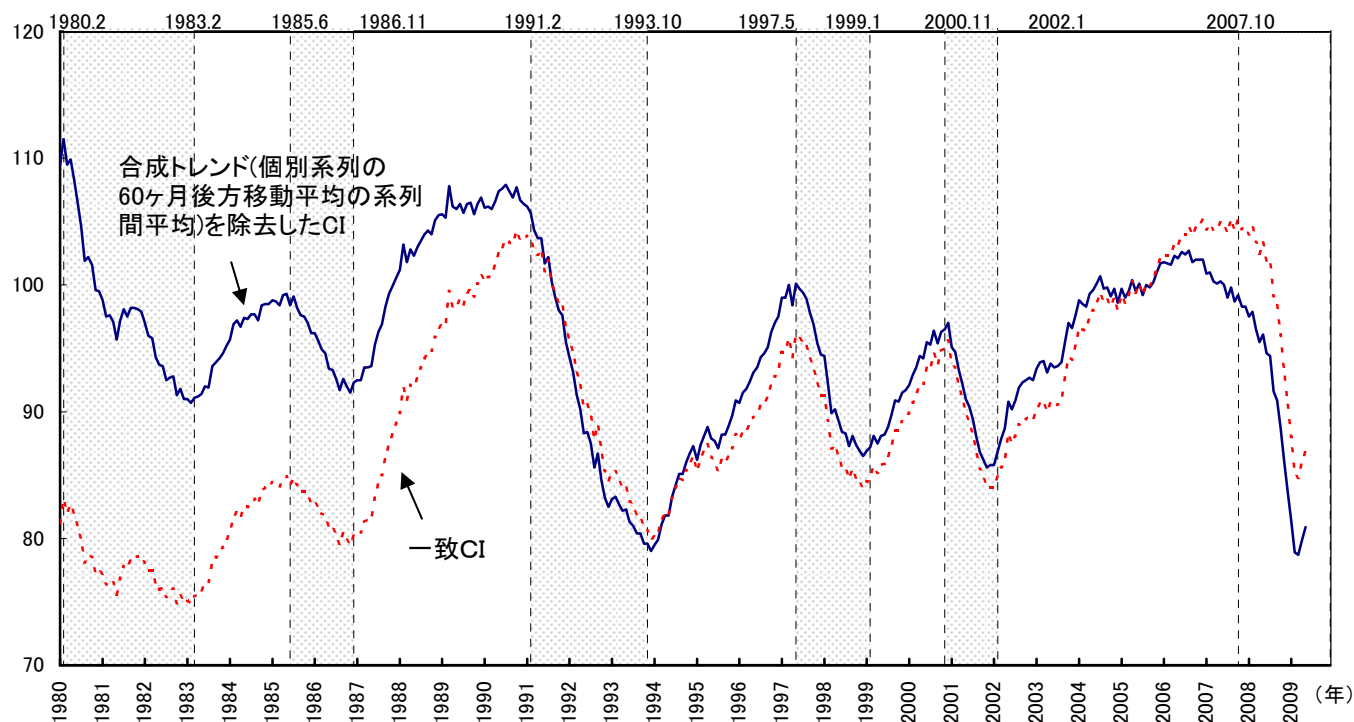
図表11 トレンド除去系列と現行系列の山谷の差

循環と日付	山				谷			
	<10> 85/6	<11> 91/2	<12> 97/5	<13> '00/11	<10> 86/11	<11> 93/10	<12> 99/1	<13> 02/1
生産指数(鉱工業)	-7	2	0	0	9	0	0	0
鉱工業生産財出荷指数	0	0	-5	0	17	0	0	0
大口電力使用量	-1	-4	0	-3	0	0	0	0
稼働率指数(製造業)	0	3	0	0	0	-1	0	0
所定外労働時間指数(製造業)	0	19	0	0	0	0	0	0
投資財出荷指数(除輸送機械)	-	0	0	0	-	0	0	0
商業販売額(小売業) (前年同月比)	0	0	0	0	0	0	0	0
商業販売額(卸売業) (前年同月比)	0	0	0	0	0	0	0	0
営業利益(全産業)	-12	0	0	0	0	0	-6	0
中小企業売上高 (製造業)	0	0	2	0	0	0	0	-19
有効求人倍率(除学卒)	-5	12	0	-2	5	-17	-1	0

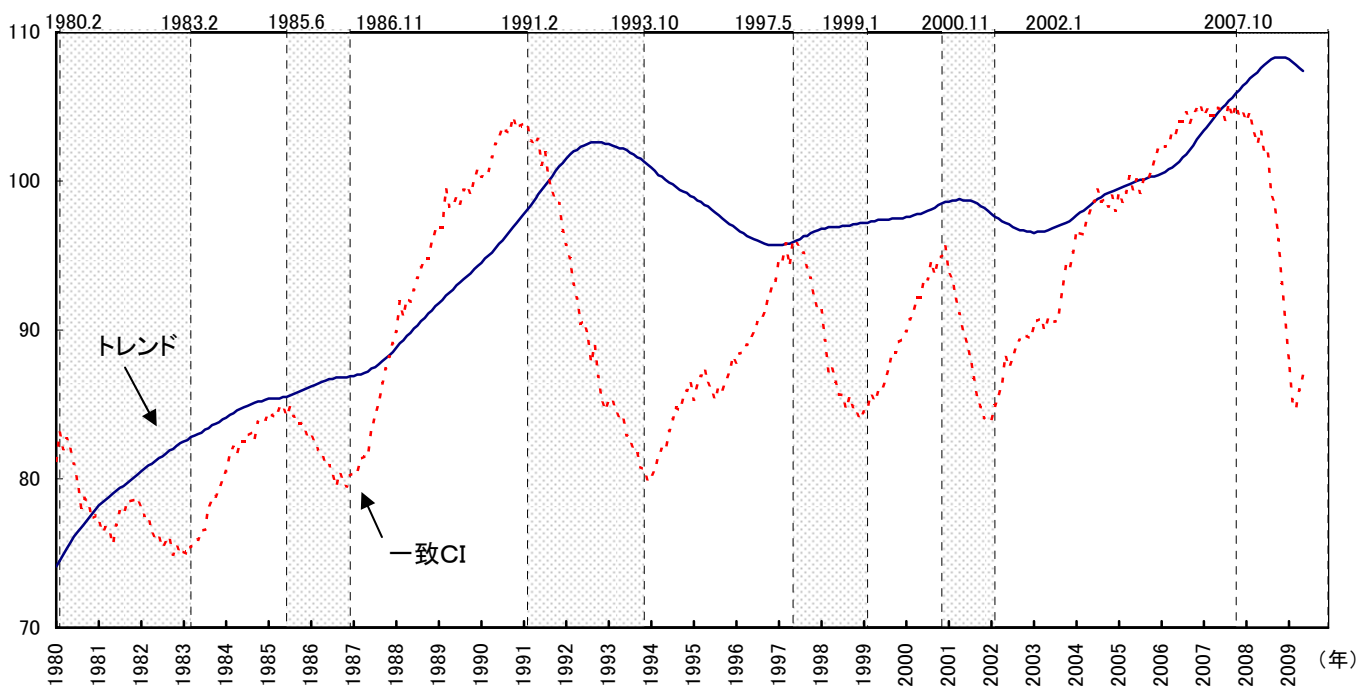
- (備考) 1. トレンド除去系列による山谷と現行系列による山谷との差(月数、マイナスは先行)。  
 2. トレンド除去系列は、HPフィルタ( $\lambda=129,119$ )によるトレンドからの乖離率により作成したもの。  
 3. 投資財出荷指数については、現行系列では第10循環の山谷が検出されない。

図表12 60ヶ月後方移動平均によるトレンド除去

①合成トレンド(個別系列の60ヶ月後方移動平均の系列間平均)を除去したCI

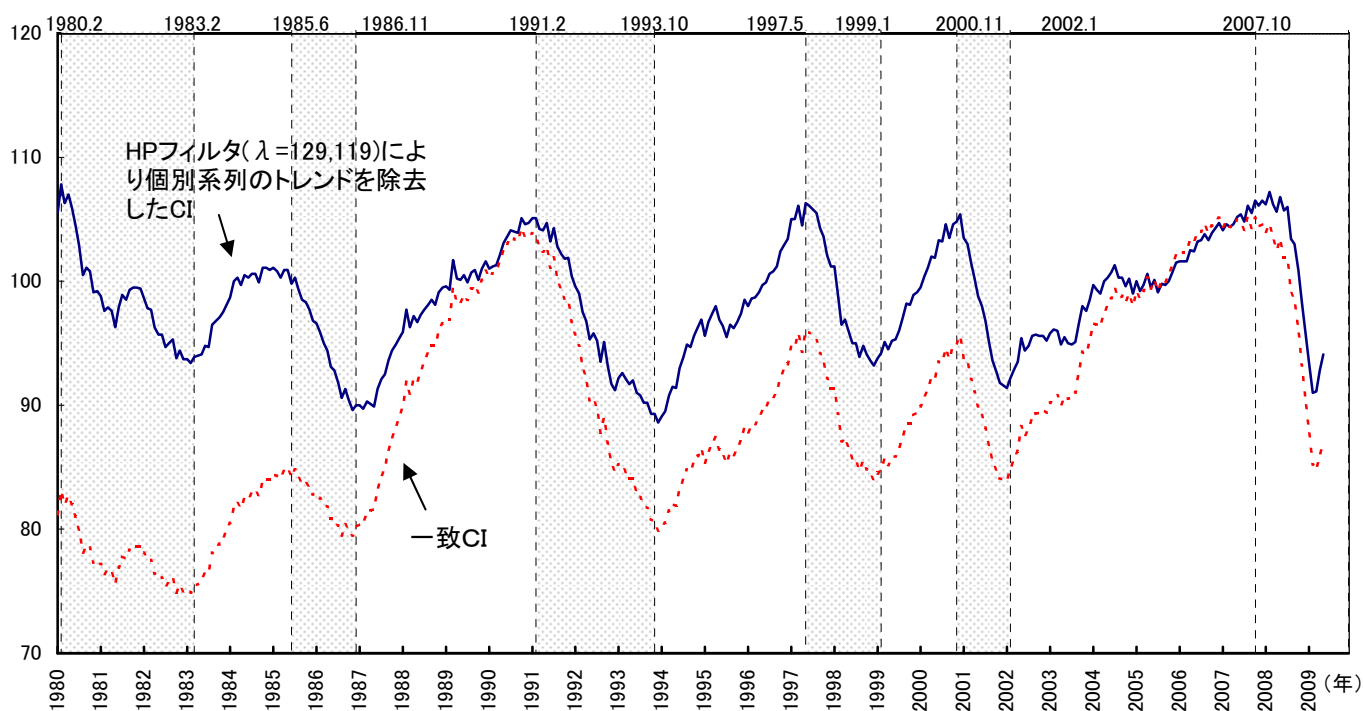


②トレンド(60ヶ月移動平均)

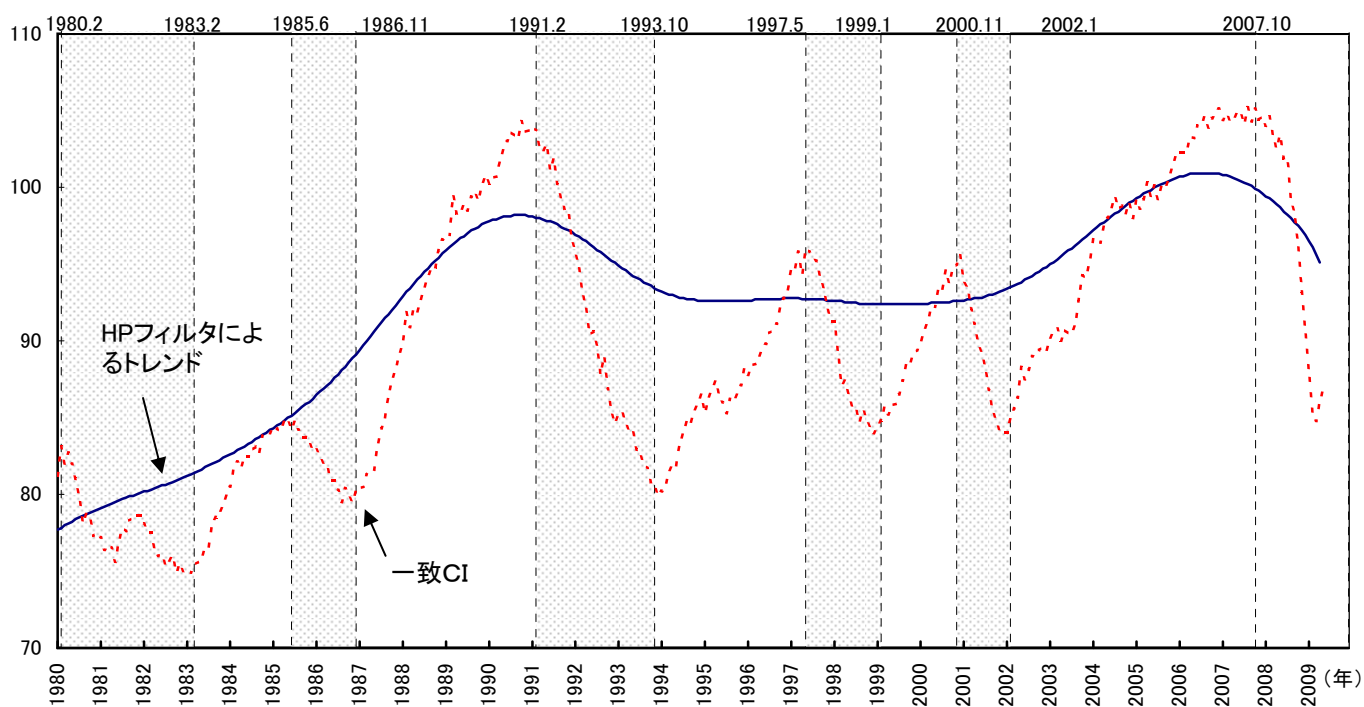


# 図表13 HPフィルタによるトレンド除去

①HPフィルタ( $\lambda=129,119$ )により個別系列のトレンドを除去したCI

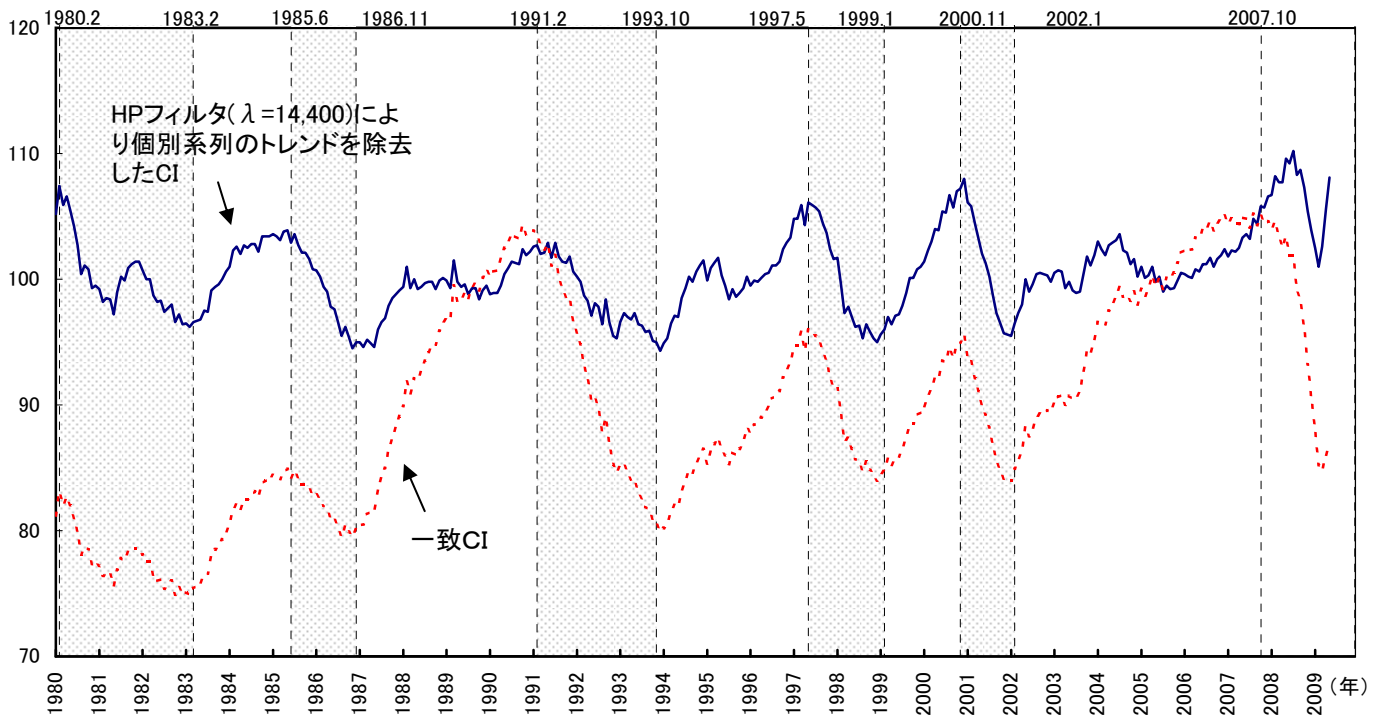


②HPフィルタ( $\lambda=129,119$ )によるトレンド

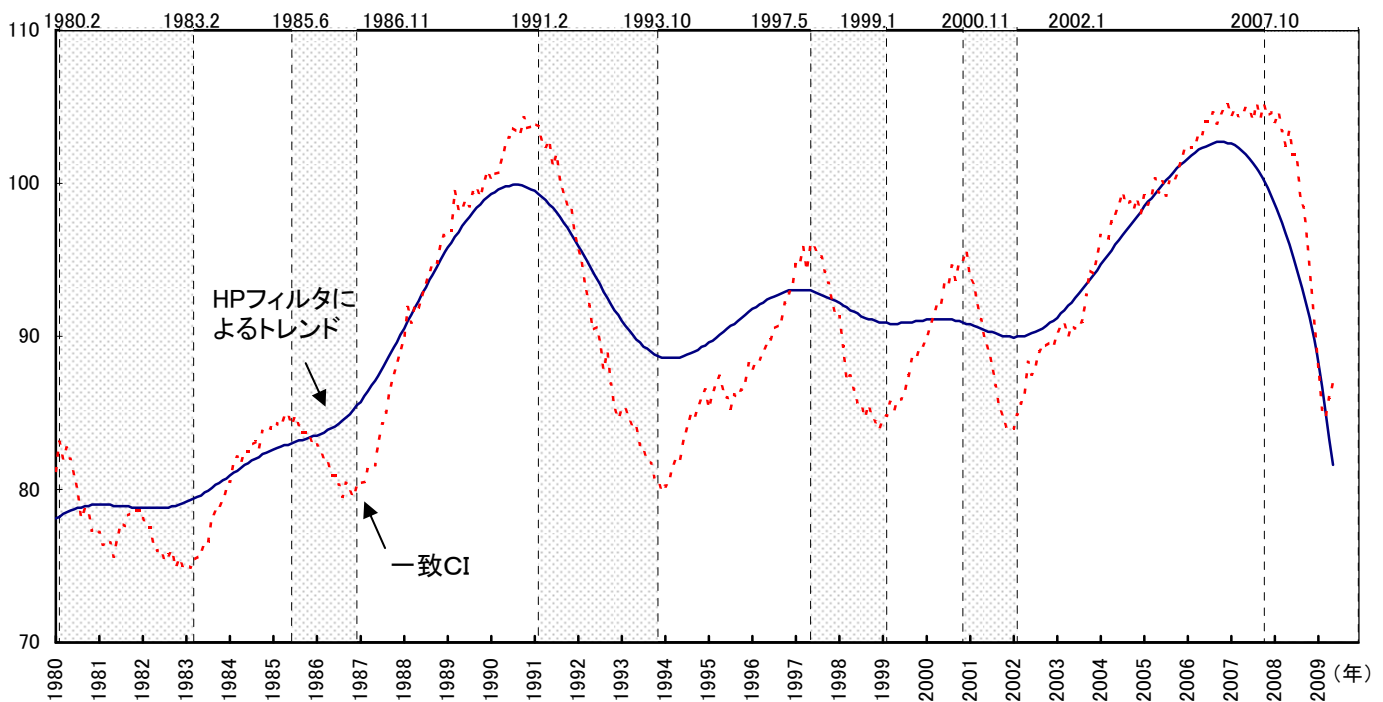


(備考)個別系列のトレンドを合成したもの。

③HPフィルタ( $\lambda=14,400$ )により個別系列のトレンドを除去したCI



④HPフィルタ( $\lambda=14,400$ )によるトレンド

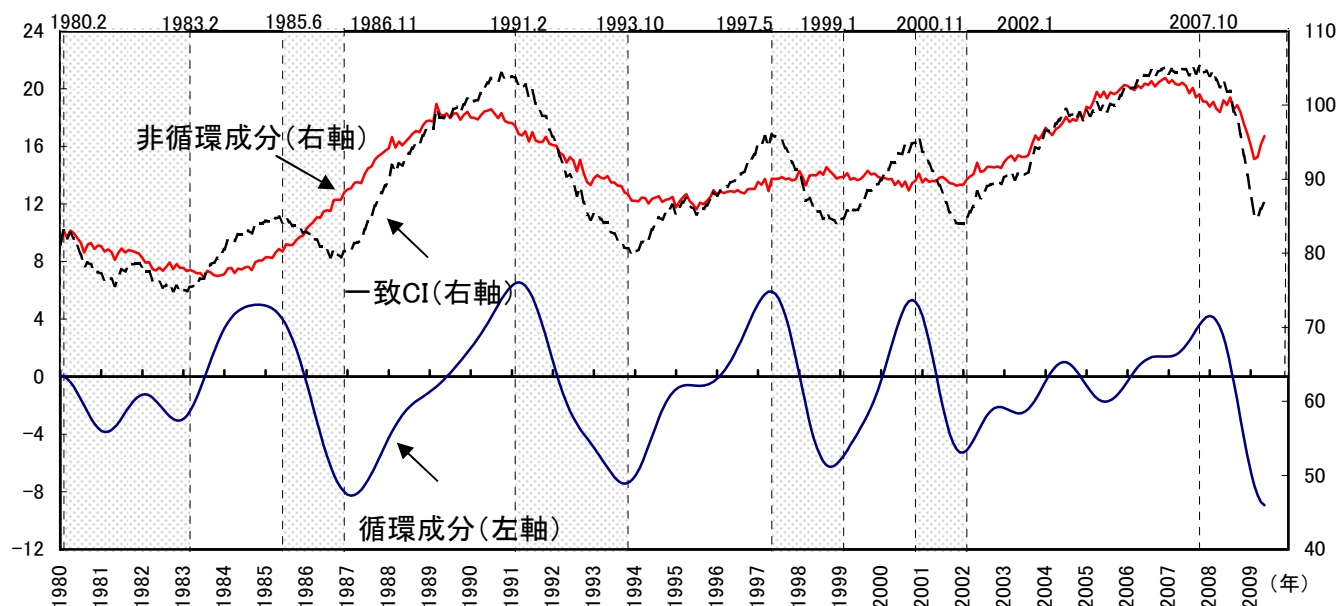


(備考)個別系列のトレンドを合成したものの。

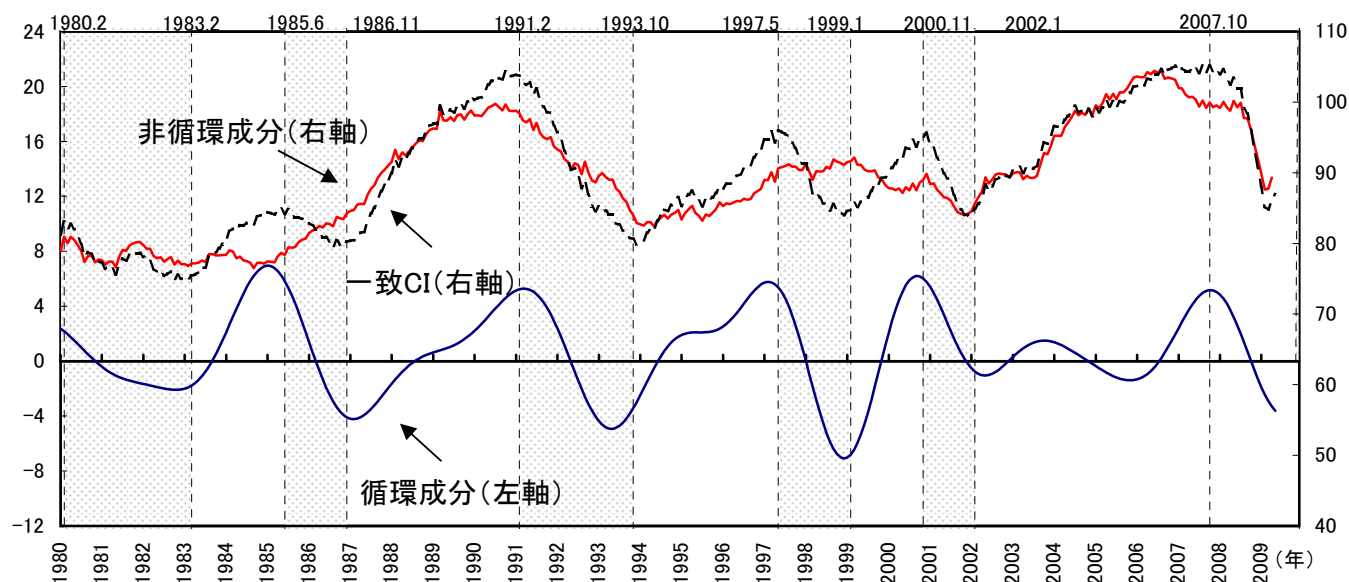


図表14 CFフィルタによる循環成分抽出の例

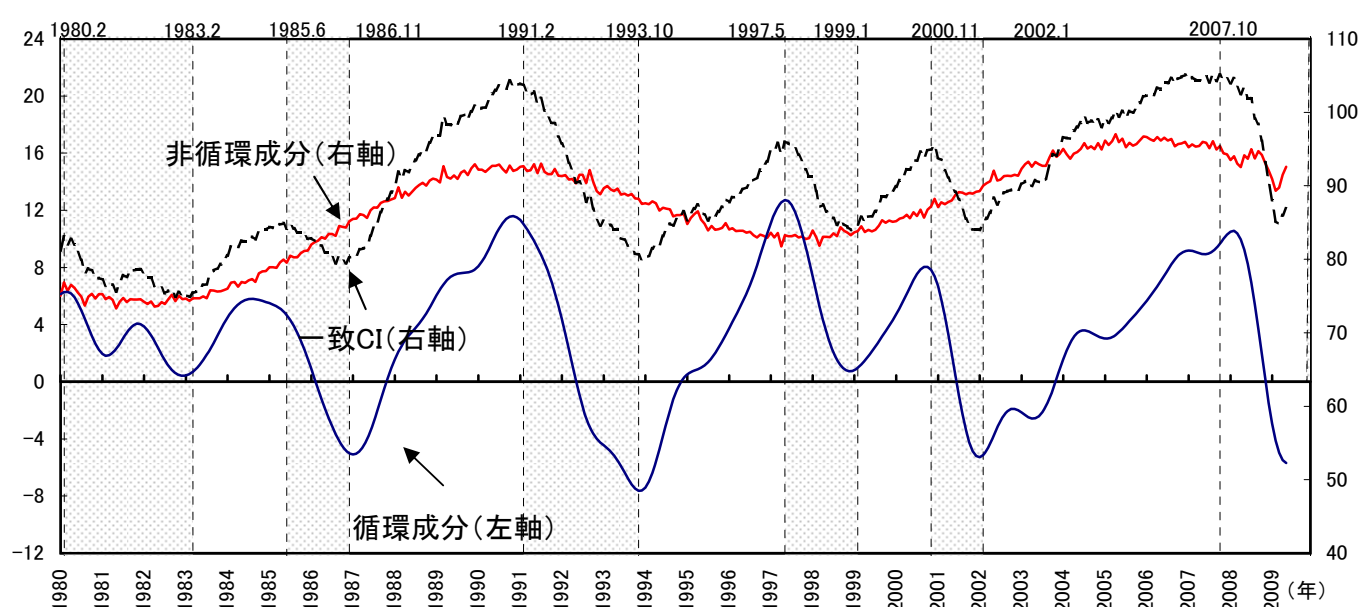
①CFフィルタによる循環成分の抽出(循環期間: 18~96ヶ月)



②CFフィルタによる循環成分の抽出(循環期間: 30~84ヶ月)



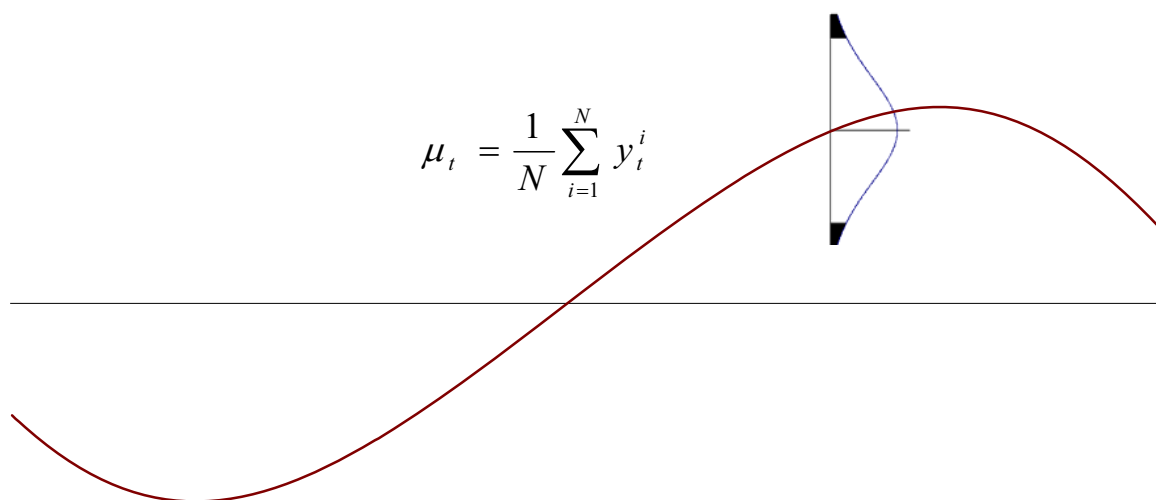
③CFフィルタによる循環成分の抽出(循環期間: 15~120ヶ月)



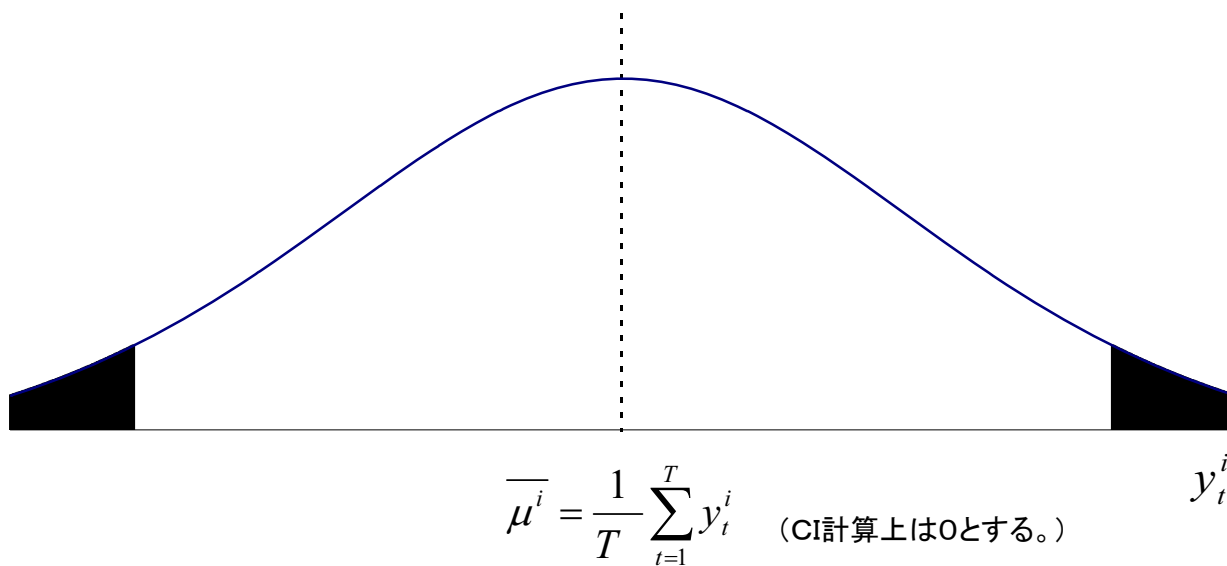
## 図表15 刈り込み手法の比較

①刈り込み上限、下限の設定(模式図)

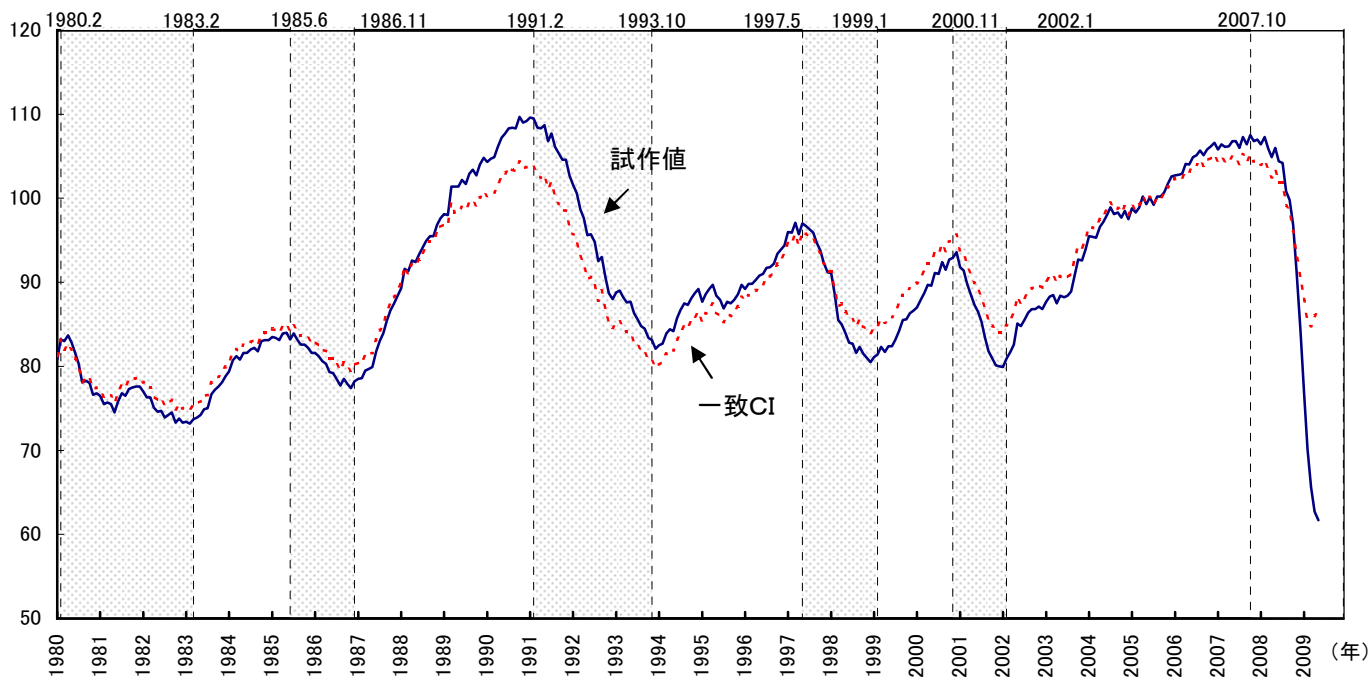
○各系列の変化率の平均を中心とする場合



○現行の考え方

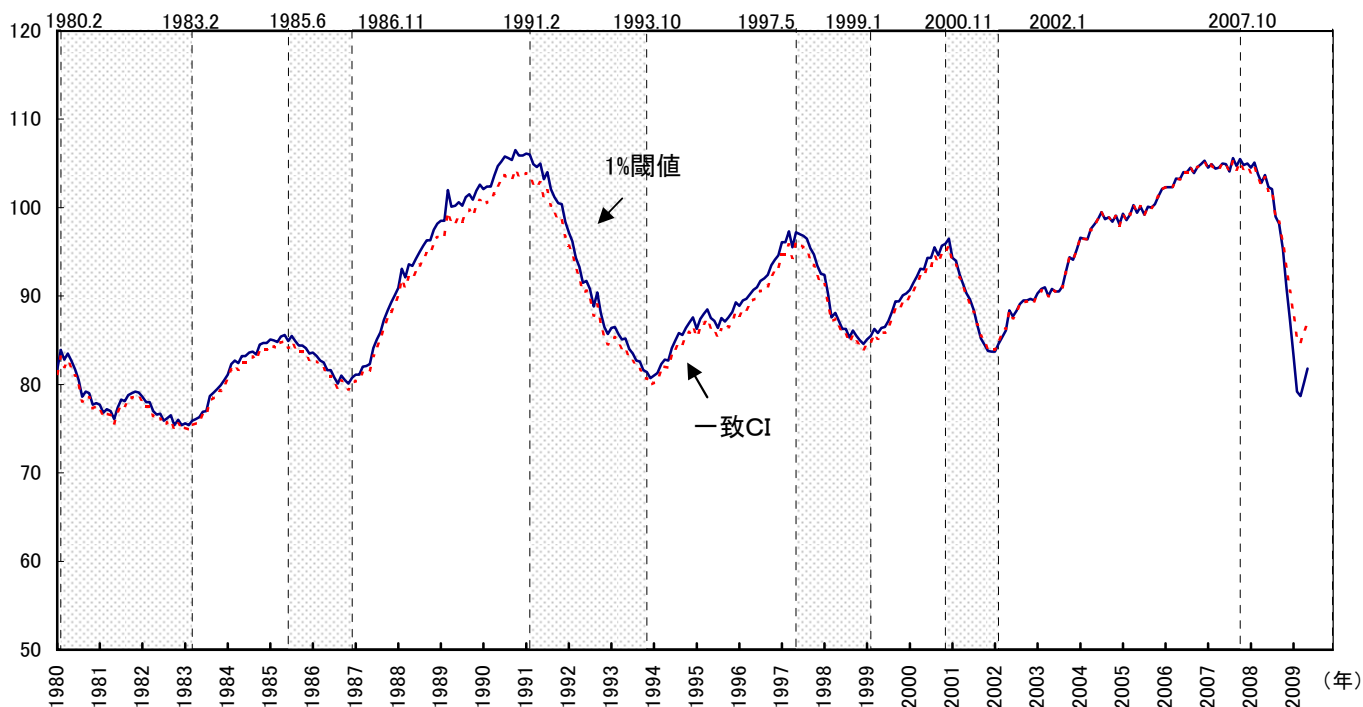


②前月平均中心CI

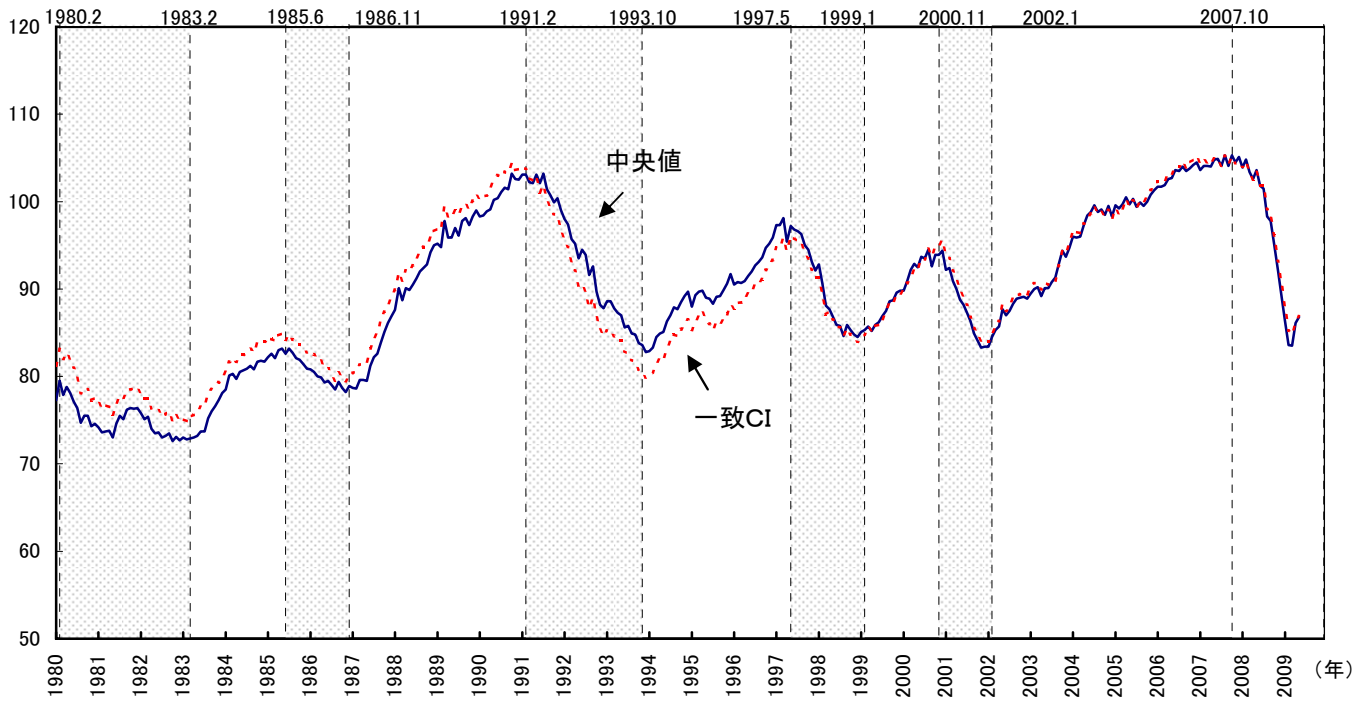


(備考)前月の各系列の基準化変化率の平均(刈り込み調整後)を中心に刈り込みを行ったもの。ただし、kの値は現行と同じ。

③外れ値が1%となるよう閾値を設定した場合のCI



④各月の個別系列の基準化変化率の中央値により作成したCI



⑤9系列(各月の個別系列の基準化変化率が最大最小のものを除く)によるCI

